

## 「はむらの授業指針」教師の視点③

### 協働的な学びがある

「協働的な学び」とは、子どもが子ども同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら必要な資質・能力を育む学びのことです。

授業では、「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、その成果を「個別最適な学び」に還元するなど、両者を一体的に充実させながら「主体的・対話的で深い学び」の実現に向かうことが重要です。

具体的に、各教科等で行われる話し合い活動を通して確認してみましょう。

より充実した学びを実現するため、子どもはあらかじめ個別最適な学びを通して自己の考えを形成し、話し合いに臨みます。話し合いでは、他者との協働を通して新たな気付きや発見を得ます。話し合い活動の指導のポイントは、話し合いで得た情報を基に、あらかじめ形成した自己の考えを再構築させることにあります。

こうして「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることが、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながります。



なお、「協働的な学び」では、集団の中で個が埋没してしまうことがないように、子ども一人ひとりのよい点や可能性を生かすことにより、異なる考え方が組み合わせたり、よりよい学びを生み出していくようにすることが大切です。また、「協働的な学び」は、同一学年・学級はもとより、異学年間の学びや他校の子との学び合いなども含みます。ICTの活用により、遠隔地の専門家とつないだ授業や他の学校・地域や海外との交流など、今までできなかった学習活動も可能となることから、その新たな可能性を「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かしていくことが重要です。

### 思いは必ず実現する

京セラ名誉会長、KDDI最高顧問、日本航空名誉顧問 稲盛和夫

思いは必ず実現する。

それは、人が「どうしてもこうありたい」と強く願えば、その思いが必ずその人の行動となって表れ、実現する方向におのずから向かうからです。

ただそれは、強い思いでなければなりません。漠然と思うのではなく、「何がなんでもこうありたい」といった、強い思いに裏打ちされた願望、夢でなければ実現しないのです。

出典：「稲森和夫一日一言 運命を高める言葉」（稲盛和夫著 致知出版社）

※ 各種の昇進試験も同様であると考えます。強い願望が行動となって表れれば、道は拓けます。